

旭市公共施設白書



平成26年6月

旭 市

はじめに

本市では、人口増加や経済発展に伴い拡大する行政需要に対応するため、特に昭和50年代から平成12年頃までの間に公民館や学校教育施設など数多くの施設を建設してきました。それ以前に建設された施設を含め築後30年を経過した施設は5割近くに及び、近い将来には、大規模改修や施設の建て替えが必要になってきます。

また、本市は、平成17年7月1日に1市3町の合併により、旧市町の公共施設を引き継ぎましたが、旧市町では、それぞれの区域で行政サービスを提供していたことで、現在では数多くの類似した施設が存在することにもなっています。

市の財政状況については、合併の特例による国の財政支援期間の終期を目前に控え、少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少から将来にわたって税収の減少が想定される一方、高齢者や子どもたちに必要な支出は増加することが見込まれています。これは、今後公共施設の保全や整備に対して今までと同様の予算配分が困難な状況になっていくことを示しているといえます。

これからは、公共施設を核とした行政サービスをいかに継続して提供していくか、真に必要な公共施設は何なのかと再確認するとともに、適正な施設運営を再構築していくなど、施設のあり方と併せて効率的で効果的な活用方法の検討が喫緊の課題となってきます。

公共施設は、市民の皆様の貴重な財産であるとともに市の重要な資産、資源でもあります。今回、本市の公共施設の管理運営経費を含めた現状や課題を様々な角度から整理、分析し、将来の施設の「質」と「量」の最適化に向けた検討を進めるため、「旭市公共施設白書」を作成しました。

今後は、この白書を多くの皆様に知っていただいた上で、各方面で様々な議論が巻き起こることを期待するとともに、本市の基本理念でもあります“自立・共生・協働”によるまちづくりの一環として、市民の皆様と将来の旭市の公共施設のあるべき姿を考えていきたいと思っています。

市の将来都市像である「ひとが輝き 海とみどりがつくる健康都市“旭”」の実現を目指し、より効率的、効果的な市政運営を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年6月

旭市長 明智忠直

第1章 旭市の概要

1 市の概況	1
(1) 人口の推移	1
(2) 財政状況	3
(3) 職員数の推移	6

第2章 旭市における公共施設の現況及び資産の有効活用の必要性

1. 保有する施設の総量	7
2. 保有する施設の築年別整備状況	8
3. 保有する施設の地域偏在性	9
4. ハコモノ公共施設の維持管理・運営コスト	10
5. 施設整備にかかるコスト	10
(1) 公共事業の種類別投資額の現況	10
(2) ハコモノ公共施設整備費の将来推計	11
6. 今後の地方交付税の見通し	13
7. 資産の有効活用の必要性	14

第3章 分類別公共施設の現状と課題

1. 「コスト」「ストック」「サービス」の的確な把握	15
2. 対象施設及び公共施設配置状況	16
3. 施設の実態把握	17
〈公共施設の評価方法〉	18
(1) 市庁舎	20
(2) 医療・保健・福祉施設	24
(3) 保育所・児童関連施設	35
(4) 学校教育関連施設	45
(5) 生涯学習関連施設	64
(6) スポーツ施設	81
(7) 産業関連施設	95
(8) 生活環境関連施設	104
(9) 消防・防災関連施設	117
(10) 市営住宅	123
(11) 公園	130
(12) その他施設	141

資料編

1. 機能分類別施設一覧	143
2. 用語説明	149